

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第21号

令和6年7月
和歌山県
長寿社会課

支え合い事例紹介 紀の川市「おてつながり」

紀の川市では、生活支援コーディネーターである道本さん（市社協）を中心に、行政と市社協が連携して生活支援体制整備事業の取組を進められています。今回、紀の川市社会福祉協議会が事務局となり令和5年11月に立ち上がった有償ボランティア制度「おてつながり」について、立役者である道本さんや協議体のみなさんにお話を伺い、実際の支え合いの現場を見学させていただきました。 [詳細は次ページ](#)



生活支援CD
道本さん

「おてつながり」のしくみ

「おてつながり」は、サポーター会員や利用会員としてそれぞれ登録が必要となり、利用会員は年会費1,000円と30分300円で利用できます。

利用会員の対象は生活支援が必要な高齢者、障がいのある方、妊産婦の方と幅広く設定されています。高齢者のみに限定しなかった理由としては、若い世代など既存の市社協のボランティア登録者とは違う層をサポーター会員として募集したかったためとのことです。実際、30代～80代まで幅広い世代がサポーター会員として登録されているとのことです。また、「おてつながり」の仕組みは就労的活動支援コーディネーターとも共有し、担い手の確保において連携されています。

ココがすごい！

利用会員の登録時には生活支援コーディネーターが必ず訪問

利用したい方から連絡があると、道本さんが必ず訪問調査をされています。この制度を利用する方は日常生活に困り事が出てきつつある方なので、その方を知り、その方に合った様々な提案をするために必ず行っているそうです。取材日、利用会員として登録されている山東さんに偶然出会いました。山東さんは道本さんに「おてつながり」の手続きのことや生活の状況を熱心に相談されており、強い信頼関係を築かれていることが伝わってきました。



山東さんと道本さん

支え合い事例紹介「NPO困りごとアシスト紀の川」

紀の川市の貴志川地区で、生活支援及び移動支援に取り組んでいるのは、坪井さんです。地域の方からの「（日常生活の支援を）やってほしい」という声を受け、数年前に独自で「NPO困りごとアシスト紀の川」を立ち上げられました。立ち上げ当初は除草や家具の移動等を想定していたのですが、実際に開始すると依頼のほとんどが、日常よく行くところへの移動支援だといいます。現在では年間1,000件以上の依頼があり、地域になくってはならない存在になっています。



坪井さん

ココがすごい！

「NPO困りごとアシスト紀の川」の支援状況

「NPO困りごとアシスト紀の川」では、坪井さんを含めて6人で依頼の対応をされています。利用のほとんどが通院の同行支援だそうで、坪井さんは希望に応じて診察室の中まで付き添うこともあるそうです。利用者の方にもお話をお伺いしたところ、「坪井さんは優しくて良い方だからみんな頼りにしているんです」と、坪井さんの人柄が利用を広げることがわかりました。



6月の支援状況

地域になくってはならない移動支援

「NPO困りごとアシスト紀の川」の取組は貴志川地区を中心に広く知られており、坪井さんの元には、ケアマネジャーから依頼の連絡が入ったり、また、診療所で医師から教えてもらったという方から依頼が入ることもあるそうです。

坪井さんの原動力は、地域の方からの「やめないで」に応えたい気持ちと、利用した方が喜んでくれること、なにより車の中でおしゃべりすることが楽しいので続いているのだそうです。無理をせず楽しく続けてほしいと感じました。



ご自宅の看板



「おてつながり」が担う様々な役割

「おてつながり」を活用して実際に行われている支え合いの現場に同行させていただいたところ。単なる生活支援サービスだけではなくこの制度を通じて様々な役割が見えてきました。

普段のつながりから「おてつながり」を知り登録。助かってます！

利用会員に登録されている橘さんはお一人暮らしで、自宅の1階にある店舗で自営業をされています。しかし、少し足が不自由になってきたため、買い物に行ったり、買った荷物を自宅の2階や3階に運ぶことが難しくなってきました。

そこで、普段からよくおしゃべりをする友達（山東さん）に教えてもらった「おてつながり」を利用することとなりました。

買い物は移動販売の配達サービスを利用して店舗まで配達してもらい、上階には「おてつながり」のサポーター会員に運んでもらっています。「（サポーター会員は）親切にしてくれるし、話をするのも楽しみ。とても助かってます！」と感謝されていました。

普段から自分の困りごとを話し合える関係＝地域のつながりがあったからこそ、「おてつながり」のサービスを知り、利用につながった例といえます。



利用会員
橘さん



2階に荷物を運ぶ様子

「おてつながり」から見える地域課題と対策

道本さんによると、1階が店舗で2階と3階が住宅になっているのは商店街の特徴で、地域課題だととらえているそうです。今後、この地域で同様の困りごとが増えてくる可能性があり、道本さんは「インフォーマルな助け合いと、既存のサービスを組み合わせることで両輪で支援していきたい」とおっしゃっていました。

県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。
連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521

「おてつながり」で地域とのつながりづくり

ココがすごい！

サポーター会員の榎本さんは数年前にこの地域に移住してこられました。

地域に知り合いがいなかったため、地域貢献をしながら地域のつながりを作っていきたいという思いで「おてつながり」に登録されたとのこと。

橘さん宅への支援はすでに何度も来ており、楽しく談笑しながら慣れた手つきで荷物運びや調理補助、高い位置にある仏壇の花瓶の水換え等をテキパキとこなされていました。作業が終わったあとは橘さんとの「おしゃべり」をかかさないので、取材日はネットスーパーの活用で話が盛り上がっていました。

榎本さんのように現役世代のサポーター会員がいるのが「おてつながり」の特徴です。榎本さんは、「自分が年をとってきた時に助けってもらえるよう、今から活動して助け合いをしていきたいと思います。」と明るく話してくださいました。



サポーター会員
榎本さん



作業が終わったあとのおしゃべり

「おてつながり」立ち上げの経緯と協議体メンバーの想い

紀の川市の第1層協議体は行政職員とSC、社協職員で構成されています。協議体会議は約2か月に1回開催されており、会議は社協と行政が実施しているサロン等（160か所以上！）で聞いた「住民の生の声」を共有する場となっています。

「おてつながり」立ち上げのきっかけは、コロナ禍で「ちょっとしたことを助けてほしい」「助け合いの仕組みがあれば心の支えになる」といった声を多く聞いたため。協議体会議で様々な手法を検討した結果、立ち上げまでのスピード感と継続性を考慮し、社協が事務局となる形で有償ボランティア制度を立ち上げることになったということです。協議体のみなさんからは「この事業は住民のみなさんが自分たちで地域を盛り上げる、その応援ができる良い事業。「おてつながり」を通じて地域のつながりがさらに広がってほしい」と、熱い想いを教えていただきました！



紀の川市第1層協議体のみなさん